

この欄でしばらくの間、読者の皆さまに
お目にかかることになった。公共の器であ
る新聞に私の拙文が披露されることはな
はだ心苦しいことだと恐縮している。ただ
AMDA（アジア医師連絡協議会）の活動
を含め、私の経歴や諸事への思いが皆さま
の毎日の生活にいささかでもお役に立てば
望外の喜びと感じ、厚顔無恥のそしりをも
顧みずあえてお引き受けした次第である。

私は福岡県の大牟田市という炭鉱町で生
まれ育った。同市の石炭産業は昭和三十年
代にその全盛時代を迎え、その後は衰退の
一途をたどっていった。つい先ごろ、同市
に残った最後の鉱山である三井三池鉱が間
もなく閉山されると報道された。同鉱山の
すくそばで育った者として感慨深いもの
がある。

昭和三十五年には同市で三池争議が起こ
った。当時の市民生活は決して裕福な状況
ではなく、小学校一年生であった私の学級

原 点

AMDA 近藤 祐次
事務局長

には裸足で学校に通う生徒が数人いたこと
を今でも覚えている。かく言う私も小学校
四年生の時まで屋外にある一本の水道を四
世帯で使用する長屋に住んでいた。そこは
台風季節にたびたび水害に見舞われる場
所でもあった。大人の胸まで床上浸水した
長屋から救助員に背負われて助け出しても
らったこともある。避難所で配給された援
助物資の毛布がとても暖かく感じられた。
それから三十余年。現在、私は自然災害
被災者や戦争難民の救援活動に従事してい
る。明確に意識しているわけではないが、
幼少のころのこれらの体験が私の活動の
「原点」なのだろうと感じている。

◇筆者紹介（こんどう・ゆうじ）中央大

法学部卒。日産自動車、笹

川平和財団総務課長を経

て、平成7年10月から現職。

43歳。福岡県出身。東京都

国立市東2ノ23ノ14。

一 日 一 題

